

# 井筒俊彦 (いづつ・としひこ) 1914~1993

言語学者・イスラーム学者・東洋思想家 ~語学の天才 知られざる碩学~

**出生** 1914年(大正3)5月4日、東京に生まれる。父は書家であり、在家の禅修行者であった。

**履歴** 父に公案集「無門関」を素読させられたり、座禅を仕込まれるなど幼いころから禅思想に親しんでいた。最初、慶應義塾大学経済学部に入學したが西脇順三郎教授にひかれて文学部英文学科へ転進し卒業、同時に同大学助手となる。1937年には、井筒氏の研究を援助するために慶應義塾大学言語文化研究所が創設されたといわれている。

戦後、慶大教授(1954-1968)、この間1959年から2年間は、ロックフェラー財団の奨学金を受けエジプトとレバノンで比較言語学等の研究を行った。カナダのマックギル大学教授(1969-1974)、イランの王立哲学アカデミー教授(1975-1979)を歴任した。イラン革命で、イランにホメイニ師が帰国する前日、テヘランから帰ってきた。帰国してからは、数回の対談や講演会を引き受けたほかは執筆活動を中心に活動していた。1981年より慶應義塾大学名誉教授、1982年には日本学士院会員に選ばれた。夫人の豊子氏はアラビア思想の研究のほか、小説も書かれている。

**事績** ギリシア思想、ギリシア神秘主義と言語学の研究に取り組み、ギリシア語、アラビア語、ヘブライ語、ロシア語など多くの言語を習得・研究した。アラビア語を通じてイスラーム思想の研究も行い、1958年に『コーラン』の邦訳を完成させた。イスラーム教の原典をアラビア語で研究できた稀な思想家である。コーラン邦訳の他にもイスラーム思想、特にペルシア思想と神秘主義に関する数多くの著作を出版したが、自身は仏教徒で、晩年には研究を仏教思想、老荘思想、朱子学などの分野にまで広げた。イスラーム原理主義哲学の奥義を、禅、密教、ヒンドゥー教、道教、儒教、ギリシア哲学、ユダヤ教スコラ哲学などの思想と比較し体系化した。東洋哲学を西洋哲学と対比させ比較研究した。言語学と思想の研究から人類に共通普遍な部分があることを確信し、体系化しようとした。

**評価** 井筒氏はその著作のほとんどが英文で書かれていることもあり、日本よりも外国で有名な学者で、日本国内よりも欧米での評価が高い。日本の人文科学系の学者は外国文化の紹介や翻訳が主な業績で、自身の研究がそのまま外国の学会で通用することは少ない。その天才的な語学力で、言語学のみならずギリシアを始めとする西洋哲学から仏教や老荘などの東洋哲学まで文献を原典で研究し、それと同レベルで我々には馴染みの浅いイスラーム思想についても理解できた。井筒訳のコーランはアラビア語に関する厳密な言語学的研究を基礎とする優れた翻訳として、現在にいたるまで高い評価を受けている。

## 代表作

『コ-ラン』 イスラーム教の聖典の口語訳で、岩波文庫に収録するために訳された。日本語でのコーランの注解書という位置づけをし、大胆な仮説や意識はせずにアラビア語と書かれた状況を忠実に再現するように訳されている。著作集7に収録。

『神秘哲学』 ギリシア古典の文献を涉猟し、前ソクラテスから新プラトン主義に至るギリシア哲学の展開の中に東洋的な神秘思想を論じる。著作集1に収録。

『イスラーム思想史』 イスラーム文化の原点であるコーランの思想を、思弁哲学(カラム)、神秘思想(スーフィズム)、そしてギリシア思想と融合したスコラ哲学(ファルサファ)の思想的流れに沿って論じるイスラーム思想の名著。著作集5に収録。

**キーワード** 読む 書かれたものを読むということは、その元の具体的な状況から離れて自由な解釈ができるようになりそれが創造性につながることもあるが、大部分の場合は誤解や勝手な解釈になってしまう。井筒氏の方法は、この創造的解釈とは逆のそのコトバが語られた具体的な状況からその根元的理解を探るといふ、如何に読めるかではなく、こう読まなくてはならないを探り出し解明していくものである。言語アラヤ識 仏教の唯識論の阿頼耶識(あらやしき)という我々が意識することのない最深層に位置する識をモデルに、言語意味構造理論にその概念を応用して言語アラヤ識と名づけている。多種多様な言語の数だけ思想や世界観や価値観があり、それらは言語や風土や民族性を軸として結晶してくる意味構造体である。これらが湧き出てくる意味可能体の貯蔵所としての言語アラヤ識は人類に共通普遍のものである。

**キーワード** 幻の大学 著者「人に会わないこと」が有名で、めったにインタビューにも応じなかった。別巻にはその貴重な対談がおさめられている。井筒に会えることができたのは、気に入られた弟子とご



郭允撮影  
朝日新聞社提供

く親しい編集者だけだったが、その編集者もイランまでイスラームの勉強に自費で行くという努力をして認められたからだった。弟子がはるばるイランまで訪ねても勉強が足りないとすぐ追い返されたという話が伝わっている。

神奈川県 自宅が鎌倉市梶原の新興住宅地にあった。

最期 1993年(平成5)1月7日、脳溢血のため神奈川県鎌倉市の湘南鎌倉病院で死去。享年78歳。

## Great Works 41

### 井筒俊彦著作集 全12巻 中央公論社 1991~1993年 <120.8/101>

**解題** 井筒俊彦は、その学者人生の最盛期を外国での研究生活に費やしている。そのため、別巻の著作目録によれば、英語で書かれたが、まだ邦訳されていない論文がかなり存在している。本著作集には、英語で書かれた論文の中でも代表的な「意味の構造」(第4巻)などが訳されている。この他に、初期の「神秘哲学」、その語学力を示す「アラビア語の教科書」や、代表的なコーランに関する一連の著作と翻訳を中心に収録されている。

#### 内容

- 1 神秘哲学[光の書房 1949年 人文書院 1978年]
- 2 イスラーム生誕[人文書院 1979年] イスラーム文化[岩波書店 1981年 1991年(文庫)] アラビア語の教科書[慶応出版社 1950年]
- 3 ロシア的人間[弘文堂 1958年 北洋社 1978年 中央公論社 1989年(文庫)]
- 4 意味の構造[牧野信也/訳 The Structure of the Ethical Terms in the Koran 1959 新泉社 1972年 中央公論社 1992年(新版)]
- 5 イスラーム思想史[アラビア思想史 博文館 1941年 岩波書店 1975年 中央公論社 1991年(文庫)] イスラーム哲学の原像[岩波書店(岩波新書) 1980年]
- 6 意識と本質[岩波書店 1983年 1991年(文庫)] 本質直観[理想 1979年12月] 禅における言語的意味の問題[理想 1975年2月号] 対話と非対話[思想 1979年1月号]
- 7 コーラン[岩波書店 1958年 1964年(改訳) コーランの口語訳]
- 8 コーランを読む[岩波書店 1983年]
- 9 東洋哲学[本全集のために再編成 1992年](意味の深みへ[岩波書店 1985年] コスモスとアンチコスモス[岩波書店 1989年] TAT TVAM ASI[中央公論社 1991年])
- 10 存在認識の道(モッター・サドラー/著 翻訳)[岩波書店 1978年]
- 11 ルーミー語録(ジャー・ツ・ディーン・ルーミー/著 翻訳)[岩波書店 1978年]
- 12 別巻・対談鼎談集 文学と思想の深層(遠藤周作) 東洋の哲学(今道友信) イスラーム文明の現代的意義(伊東俊太郎) 神秘主義の根本思想(上田閑照・大沼忠弘) スーフィズムとミスティシズム(H・ランドルト) ユング心理学と東洋思想(J・ヒルマン 河合隼雄) イスラーム世界とは何か(岩村忍) 思想と芸術(安岡章太郎) 二十世紀末の闇と光(司馬遼太郎) 著作目録

## 参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書(部分)>

- ☞ 二十世紀末の闇と光/司馬遼太郎著(司馬遼太郎対話選集 5) 文藝春秋 2003年 p <914.6MM/830/5> 資料番号 21587837
- ☞ アラバスク/司馬遼太郎著(十六の話) 中央公論社 1993年 p45-64 <914.6CC/407> 資料番号 20648804

<雑誌論文>

- ☞ 井筒先生の書齋/松原秀一著 三田文学(第三期)(三田文学会) 78(59) [1999.11] <Z910.5/17>
- ☞ 師よ、永遠に生き給わんことを/牧野信也著 三田評論(慶應義塾大学) 946[1993.4] <Z051/95>
- ☞ 歴史とトランス 井筒俊彦先生のしぐさの記憶/中沢新一著 中央公論文芸特集(中央公論社) 10(1) [1993.3] <Z910/501>